

大人の服育

第1回

「大人の服育」とは

みなさま、はじめまして、ファッションプロデューサー（服飾専門家）のしぎはらひろ子です。

今回からはじまる【大人の服育】では、産業デザイン・ブランド戦略・ファッションといった様々な学びと経験をもとに、35年間ファッション業界に身を置いてきた私だからこそお伝えできる「ファッションに宿る知識と力」について、学びの場でも役立つ情報としてお届けしたいと思っています。

途絶えてしまった衣服の文化

「食」を通じ、命のありがたさを頂くように、「衣」を通じ「命の温もり」を感じてほしい。『毎日身に着ける洋服なのに、学校で学ばなかったファッションの基礎基本』を「大人の服育」としてお伝えしたいそんな願いから、昨年7月に、「一般社団法人ファッションエデュケーション協会」を設立しました。

人間は地球上に存在する生命の中で唯一「衣服」を必要とします。原始時代は獣の皮を纏い、やがて植物を繊維に変えることで衣服の文化は豊かに成長し、現在は化学繊維を含め、地球上の人口よりも多くの衣服が生産されるようになりました。

やがて、持ちきれないほどの服を買い、溜め込んだ先進国の人びとは、溢れる衣服の前で、途方に暮れ、捨て方も知らずに困っています。

なぜそのようなことが起こるのか？

「毎日身に着ける衣服のことを家庭や学校では学べない」からなのです。

古来日本人は和服と共に、様々な行事や祭りの作法を通じ精神を磨き、和装文化伝承してきましたし、洋装文化発祥の地、ヨーロッパでも装いを通じマナーや立ち居振る舞いが家庭の中で伝承されてきました。



ですが、残念ながら敗戦後、アメリカから輸入された「ファッション」に乗り換えることで「洋装文化」の伝統や学びつがれた知識を知ることもなく、私たちは和装文化を根幹に持つ「和服」を脱ぎ捨て「日本の衣装文化」の源流をあっさりと断ち切ってしまったのです。

結果、ルールもマナーもあいまいな基準となり、服を売るための媒体として作られた「ファッション誌」がバイブルとなること（消費志向のファッション概念）が蔓延しているのです。

未来の地球のために

地球環境の危機が迫る今、サステナブル【sustainable】な産業構造に向けてパラダイムシフトが始まっています。本来の衣服の目的や扱いに対する知識を復活&進化させることは「未来の地球への大きな貢献への道」へと繋がる大切な扉です。

体の内に異物を抱く苦しみがあるからこそ、光り輝く真珠。自然の恵みであるタデの葉に気の遠くなるような細やかな工程を重ね生まれる藍色。たった2か月の儂い命の蚕から生み出される、宝石のような光を放つ艶やかな絹糸。

衣服の源流に多種の生物が介在し、捧げられた命によって洋服や小物は生まれてきます。

この連載を通じて、教師のみならず、更には生徒のみならずにも、「トレンド」「買う」「着る」「捨てる」という、愛情のかけらも感じないお洋服との付き合い方を終わらせ、地球の未来への貢献に繋がるファッションの知識と力をお届けしていきます。どうぞよろしくおねがいいたします。



しぎはら ひろ子

服飾専門家、ファッションエデュケーション協会代表理事

数々のファッションブランドのブランド戦略、プロデュース、商品企画等に関わる。アパレル販売員、スタイリストの服飾指導もっており、近年は経営者や政治家などセルフブランディングで差別化を必要とする人への服飾戦略スタイリングを行う。2007年よりベストドレッサー賞選考委員。